



第28号

有功会ながの

発行
事務局長野県赤十字有功会
日本赤十字社長野県支部
〒380-0836 長野市南県町1074TEL 026-226-2073 FAX 026-223-4181
URL <https://www.nagano.jrc.or.jp/>

あけましておめでとうございます。
有功会員の皆さまには、健やか
に新年を迎えるれましたこととお
慶び申し上げます。

昨年中は本会の活動に深いご理
解と温かいご支援を賜り厚く御礼
を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、
いまだ収束の見通しがつかない新
型コロナウイルスの流行により、
当会におきましても例年5月に開
催している総会を中止とし、総会
においてお諮りする予定であった
議案につきましては役員の皆さま
による書面決議とさせていただき、
また、11月に予定していた研修旅
行もやむを得ず中止とするなど、
計画通りに行事が行えないもどか
しい年でありました。

このような中、当会といたしま
しては、感染拡大を防ぐ一助とな
るよう、また会員の皆さまの健康
管理にお役立ていただくよう、日
本赤十字社で作成された新型コロ
ナウイルス感染症に関するリーフ
レット「新型コロナウイルスの3
つの顔を知ろう」負のスパイナル
を断ち切るために」を会員の皆
さまに送付いたしました。

また、赤十字活動支援事業とし
て、日本赤十字社長野県支部が行
う赤十字事業の一つである救急法
等の講習事業において、児童・生
徒に対する講習普及教材「ミニア
ン（心肺蘇生・AED学習キッ
ト）」の整備の支援に協力し、こ
のような状況下における講習の普
及推進に寄与しました。

今後も引き続き赤十字の使命で
ある「人間のいのちと健康、尊厳
を守る」という思いを胸に継続
的・安定的な活動を続けていく
ほししいと思います。



長野県赤十字有功会
会長 石井 和男



その財源となる赤十字活動資金
につきましては、今年度も、多く
の会員の皆様からご協力をいただ
き、誠にありがとうございました。
寄せられました大切な資金は、救
援物資の整備など災害救護活動を
はじめ、長野県支部が行うさまざま
な赤十字事業に使わせていただき
ます。

赤十字有功会は、会員相互の親
睦を図りながら、赤十字事業の進
展を支援する団体であり、今後も
更なる支援活動を続けてまいりた
いと考えております。引き続き、
会員の皆さまの温かいご支援とご
協力をお願い申し上げます。

おわりに、新型コロナウイルス
感染症が一日も早く収束するよう
念願するとともに、本年も会員の
皆さまが健康で

ますよう祈念
し、年頭のご挨
拶とさせていた
だきます。



長野県赤十字有功会結成25周年記念事業 記念樹「イトスギ」の植樹

令和2年3月31日（火）、長野県赤十字有功会結成25周年の記念事業として、石井会長出席のもと、長野県赤十字歴史資料館前庭園に記念樹「イトスギ」の植樹を行いました。

「イトスギ」は、ヒノキ科の樹木で、赤十字発祥のきっかけとなつた戦地 北イタリアのソルフェリーノの丘で群生していたことから、赤十字のシンボルツリーとされています。今後も、このイトスギの成長とともに、有功会が発展していくことを祈念しています。



石井会長と清水事務局長による「イトスギ」の植樹

児童・生徒に対する講習の普及・講習資材「ミニアン(心肺蘇生・AED学習キット)」整備事業への協力



長野県支部が行う救急法等の講習事業における児童・生徒に対する講習普及に寄与するため講習教材半身人形ミニアン（心肺蘇生・AED学習キット）を当会より寄贈いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校における救急法の講習が従来の方式では実施できない状況でありましたが、

本教材により児童・生徒一人ひとりが十分な距離を取りながら心肺蘇生について学んでいただくことが可能となりました。

毎年、全校生徒が授業で救急法を学んでいる長野市の中条中学校では、6月25日、寄贈された資材を使い、心肺蘇生を体験

しました。

これまでのみんなで協力して行うAEDを用いた学習法とは違い、一人ひとりがそれぞれの人形に向かい体験することで、各個人で心肺蘇生の一連の流れを学習することができます。参加した生徒は「心肺蘇生は一人だと大変。しっかりと覚えて、もしもの時はみんなで協力して助けたい。」と話してくれました。

長野県支部では、新型コロナウイルスに負けることなく、いのちを救う教育を続けていきます。



新型コロナウイルス感染症について

○新型コロナウイルスとは

「新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般的の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつか種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた一重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

○新型コロナウイルス感染症の

感染経路

ウイルスは粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着す

るだけと言われています。物の表面にいたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われています。

手洗いは、たとえ流水だけであつたとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるのです。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水

と石けんでの手洗いができる時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

「接触感染」とは： 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触るとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染することを言います。

WHOは、新型コロナウイルス

一般的には飛沫感染、接触感染で感染します。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。

（WHOは、一般に、5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛まつ（約3,000個）が飛ぶと報告しています）

○飛沫感染とは： 感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の

方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染することを言います。

現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンについては、早期の実用化を目指し、国内・海外で多数の研究開発が精力的に行われています。通常より早いペースで開発が進められており、既に、臨床試験が進められています。

一般に、ワクチンの開発までには、当該ワクチンの有効性・安全性の確認や、一定の品質を担保しつつ、大量生産が可能かどうかの確認などをを行う必要があります。開発には年単位の期間がかかると言わ

は、プラスチックの表面では最大72時間、ボール紙では最大24時間生存するなどとしています。

○ワクチンの開発状況



そうした中でもできるだけ早いワクチンの開発・供給は急務であり、研究開発、生産体制の整備に支援されています。

国内においては、組換えタンパクワクチン、不活性ワクチン、メッセンジャーRNAワクチン、ウイルスベクターワクチンなど多数の種類のワクチン開発が行われています。例えば、大阪大学等が開発を進めているDNAワクチンは、すでに、臨床試験が開始されています。また、国立感染症研究所や東京大学医科学研究所などが開発しているワクチンについても、2020年度内の臨床試験の開始を目指して、開発が進められています。

また、海外においては、ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社が、第3相試験で、開発中のワクチンを投与した人の方が、投与していない人よりも、新型コロナウイルス感染症に発症した人が少なかったとの結果が得られたと発表しています。

安全性や有効性の確認を最優先に、全国民分に提供できる数量のワクチンの確保に引き続き取り組んでいます。

(※新型コロナウイルスとは
新型コロナウイルス感染症の予防法
引用元・厚生労働省ホームページ)

○新型コロナウイルス感染症の予防法

○新型コロナウイルス感染症への日本赤十字社の対応状況について

○赤十字病院における取り組み

新型コロナウイルス感染症は、一般的な状況における感染経路の中心は飛沫感染及び接触感染ですが、閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。

また、2020年度内の臨床試験の開始を目指して、開発が進められています。また、海外においては、ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社が、第3相試験で、開発中のワクチンを投与した人の方が、投与していない人よりも、新型コロナウイルス感染症に発症した人が少なかったとの結果が得られたと発表しています。

安全性や有効性の確認を最優先に、全国民分に提供できる数量のワクチンの確保に引き続き取り組んでいます。

2020年度内の臨床試験の開始を目指して、開発が進められています。また、海外においては、ファイザー社、モデルナ社、アストラゼネカ社が、第3相試験で、開発中のワクチンを投与した人の方が、投与していない人よりも、新型コロナウイルス感染症に発症した人が少なかったとの結果が得られたと発表しています。

安全性や有効性の確認を最優先に、全国民分に提供できる数量のワクチンの確保に引き続き取り組んでいます。



JMAT (日本医師会災害医療チーム)、DPAT (災害精神医療チーム)、自衛隊などと連携して業務に従事しました。

DMAT (災害派遣医療チーム)として派遣された日赤スタッフは、他の医療チームと連携し、感染者の搬送、乗客乗員への検疫等を支援しました。

・感染者の受け入れ状況

感染症指定医療機関の施設を中心、全国91の赤十字病院の3分の2以上の病院で、隨時、感染者及び感染疑い者の受け入れを行っています。

派遣された医療スタッフは、船内に宿泊しながら支援活動に従事し、概ね3日間毎に交代し、乗客全ての下船が完了するまで支援活動を展開しました。

派遣された赤十字救護班は、乗客乗員の医療や健康管理を行うメディカルセンターの支

感染者受け入れの病床確保のため、一般病床や一部の外来診療の稼働休止、入院、予定手術を延期するなどしたうえで、院内感染防止の措置を行い、必要な病床の確保に努めています。

県内の赤十字病院においても、重点医療機関または協力医療機関として感染症患者の受入病院に指定され、受け入れをしております。

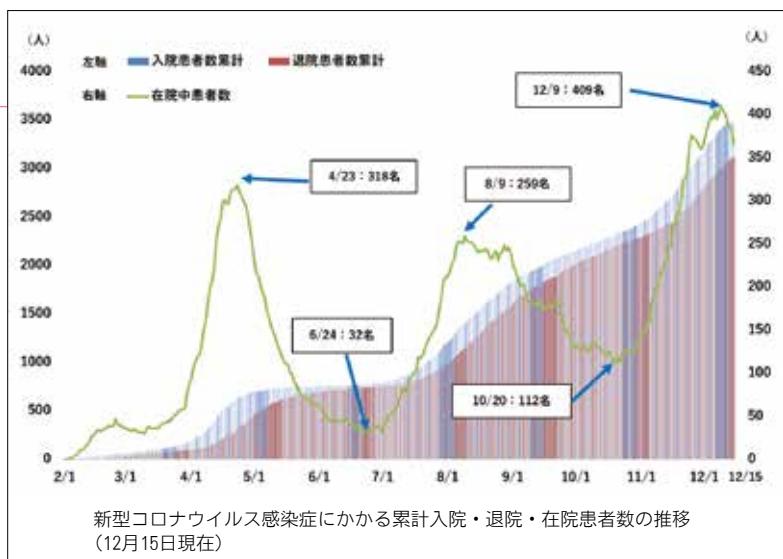
・直面する課題と対応

医療スタッフの感染予防のため、通常の倍以上の人手がかかるため、感染症病棟以外の医療スタッフを新型コロナウイルス感染症対応に投入しています。

特に、呼吸管理が必要な重症者がさらに増加した場合、医療スタッフの不足が懸念されることから、対策を進めています。

また、防護服を着用しながらの診療による医療スタッフの身体的負担は大きく、さらに、感染リスク

クに対する心理的な負担も大きくなっています。そのため、院内での職員のサポート体制の強化を進めるとともに、職員の心のケアにも配意しています。



- ・献血者の減少
- 一時期、外出自粛や献血協力団体からの献血協力辞退の申し出が

○血液事業における危機と対応

・献血者の減少

今後も状況を注視しながら、行政機関や関係団体との一層の連携強化、特に「献血予約」の推進を呼びかける献血推進広報などに取り組むこととしています。

・安全かつ安心な献血環境への取り組み

献血会場等におけるウイルス感染を予防し、安全かつ安心な献血環境を保持する観点から、職員の健康管理を徹底するとともに、ウイルス感染の可能性のある方の献血

増加したこと等により、献血者の減少が顕著になり、血液の確保に深刻な事態が生じる恐れもありましたが、ホームページや報道機関を通じた献血への協力の呼びかけによって、危機的な状況は回避できています。

長野県は、関東甲信越ブロックに所属するため、感染が拡大している東京など都市部を中心に減少している血液確保を力バーするべく、感染症の蔓延下においても、今まで以上に献血者の確保を求められています。

献血会場への入場を制限するなど、各種対策に取り組んでいます。献血ルームの入口で掲示物による感染防止啓発や手指消毒のお願い、対面箇所にはパーテーションの設置、また、移動採血バス内にも安全対策として、パーテーションを設置しています。



手指消毒のお願いや注意喚起の掲示
(長野市問御所の献血ルーム)

献血協力者との対面を極力避けるためのパーテーションを設置
(移動採血バス車内・献血ルーム)

○差別・偏見を防ぐための情報発信
「3つの感染症」への取り組み

○サポートガイドによる発信

①『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』

世界中で感染が拡大する中、「こうの健康」を保つことを目的と

して、第1の感染症である「病気」のほかに、「不安と恐れ」、「嫌悪・偏見・差別」という3つの感染症への対応をまとめたサポートガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」を作成し、公開しています。

本ガイドでは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながると警鐘を鳴らし、病気、不安、差別への対処法を短くわかりやすい言葉で紹介しています。

長野県支部では、本啓発リーフレットを支部ホームページに掲載し、地区分区及び赤十字奉仕団、有功会員等赤十字関係者へ配布し、広く啓発活動を展開しています。

また、県教育委員会を通して県内全ての小・中・高等学校にも配布されており、人権教育の教材として活用されています。

②『感染症流行期にこころの健康を保つために』

隔離や自宅待機により行動が制

限されている方とその周りにいらっしゃる方、高齢者や基礎疾患のある方とその家族向けのサポートガイド（3種類）を一般公開し

行動制限されている方には自身のこころを保つためのヒントを紹介し、それを支える方には支援の方法や注意点を助言しています。高齢者には噂や伝聞をうのみにせず本当に正しいかを確かめる大切さも伝えています。

3つの感染症はつながっている



第1の“感染症”
「病気」

第2の“感染症”
「不安」

第3の“感染症”
「差別」

ひとりひとりが気を付けないと
ワタシはこうやって力をつけていくよ...



感染症流行期にこころの健康を保つために
—高齢者や基礎疾患のある方とご家族の方へ—

Japan Red Cross Society
Japan Red Cross Hospital

③『新型コロナウイルス感染症に 対応する職員のためのサポートガイド』

感染症対応に従事した職員に

対する精神保健・心理社会的支

援のため、音声解説付きサポー

トガイドを作成し、発信しました。

感染症流行時における特有の

ストレス反応を紹介し、職員がこころの健康を維持しながら活動を継続するためには、本人が感染症に対する知識を深めるほか、家族や同僚、組織からの支援が必要であることを訴え、それぞれの立場でできることを掲載しています。

本ガイドは、赤十字以外の方々

にも活用いただけるよう、一般にも公開しています。

また、本ガイド策定後、各支部・施設における取り組みの経験知を広く共有するためガイドVOL.2を新たに作成し、さらなる精神保健・心理社会的支援に努めています。

新型コロナウイルスの 3つの顔を知ろう！

負のスパイラルを断ち切るために



看護学生による医療従事者応援プロジェクト

小岩副支部長（長野県副知事）の提案により、県と協働で啓発リーフレットを動画化し、県及び支部のホームページに掲載。また、県は公式SNS（YouTube、Twitter等）にて公開し、県民への啓発活動を展開しています。

動画は、各地域や企業団体等において広く活用いただいている他、県内ケーブルテレビでも放映されるなど、多くの方に周知することができました。

医療現場で奮闘する医療従事者への感謝と応援の気持ちを込めたメッセージ動画を作成し、支部や県内赤十字病院のホームページなどで公開しています。

私たちも医療を志す者として、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、できることに全力で取り組んでいきます。

小岩副支部長（長野県副知事）の提案により、県と協働で啓発リーフレットを動画化し、県及び支部のホームページに掲載。また、県は公式SNS（YouTube、Twitter等）にて公開し、県民への啓発活動を展開しています。

医療従事者を応援するプロジェクト「#最前線にエールを何度も」に、長野及び諏訪赤十字看護専門学校 学生赤十字奉仕団が参画。

○長野県との協働による 啓発動画の作成

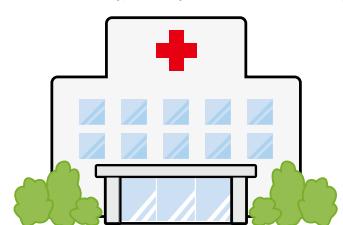
○医療従事者を応援する プロジェクトへ参画

○青少年赤十字事業を 通じた発信

全国の医療従事者を応援するプロジェクト「#最前線にエールを何度も」に、長野及び諏訪赤十字看護専門学校 学生赤十字奉仕団が参画。



授業では、医療従事者の方々に感謝と激励の気持ちを伝えるメッセージボードを作成し、県内の赤十字病院で掲示いたしました。



さらに育むことができたと感じています。

曾久市立田口小学校及び木曾町立日義小中学校で、児童・生徒を対象に、コロナに対する感染対策や行動等を考える「コロナに負けない心づくり」の授業を実施しました。学習を進める中、子ども達からは「差別は病氣以上に怖い。」「感染した人が悲しい気持ちにならないようにしたい。」との声が聞かれ、授業を通じて、人を思いやる心を



